

放送大学 アニュアルレビュー 2014

The Open University of Japan
Annual Review 2014



新潟学習センター



和歌山学習センター



広島学習センター



北海道学習センター



熊本学習センター



東京渋谷学習センター



本部



富山学習センター

2014年度 学位記授与式

2015年3月21日(土・祝)、2014年度学位記授与式を、東京・渋谷NHKホールにおいて挙行了。当日は学部卒業生・大学院修了生と同伴者をあわせて、大勢の方々が出席した。卒業証書・学位記授与の後、岡部洋一学長式辞、赤池誠章文部科学大臣政務官、渡辺克也総務省大臣官房審議官からの祝辞に続き、学部卒業生総代高嶋熙和さん(北海道学習センター)と大学院修了生総代小島さやかさん(新潟学習センター)による感動的な謝辞があった。その後全専攻または全コース卒業の44名の『放送大学名誉学生』に対し学長表彰が行われた。続いて、優れた教育活動を行った専任教員を、学生による授業評価や教員の推薦に基づき選考した『放送大学優秀授業賞』が島内裕子教授に授与された。2014年度の学部卒業生は4,915名、大学院修了生は357名であった。



CONTENTS

学長挨拶	2	社会への貢献	20
博士後期課程の開設	3	学習センターの活動、この1年	22
充実した教育内容	5	放送大学の新たな動き	29
放送大学における研究	13	データで見る放送大学の概要	31
国際交流の取り組み	18		

【編集】

■放送大学アニュアルレビュー2014タスクグループ

副学長/小寺山 亘	生活と福祉/田城 孝雄	社会と産業/梅干野 晁
人間と文化/草光 俊雄(主査)	心理と教育/田中 統治	情報/辰己 丈夫
自然と環境/大森 聡一		■総務部広報課

「放送大学アニュアルレビュー2014」は、2014年4月～2015年3月の放送大学の活動を記録したものです。

Annual Review 2014の公刊によせて



2015年8月
学長

岡部 洋一

放送大学は2001年4月に大学院を設置したが修士課程のみの組織であった。2014年4月より新たに博士後期課程を設置し、いわゆる博士課程を増設した。定員10名とし、2014年10月より第一回生として12名の学生の受け入れを行った。修士課程と同様に文化科学研究科の一研究科大学院であり、審査に合格すると博士(学術)の学位が授与される。

教養学部の上に設置されるものとして、職場や地域などでリーダーシップを発揮できる広い教養と高い専門性の両立が要求される「いわゆるT字型」の人材を育成する。また、通信制大学であるが故に、可能な限りインターネットを活用した教育・指導が行われるように留意されている。

2014年10月より、これまでシステムとして個々に独立していた学生サービスを統合し、インターネット経由の学生サービスとして“キャンパスネットワークホームページ”を整備した。これにより、学生や教員間の討論、質問・回答、インターネット配信されている放送授業へのリンク、各種予定表などが統合的に活用できるようになった。

オープンコースウェア(OCW)に続き、日本オープンオンラ

イン教育推進協議会(JMOOC)にも参加し、“OUJ MOOC”というプラットフォーム上で、電子ブック形式によって2講座の無償公開を行った。さらに、放送授業(全15回)のインターネット配信は、本学の学生に限り、ほぼ全科目を視聴できるようにした。一般の方には講義の一部(1回分)ではあるが、同じくほぼ全科目をホームページ上で視聴できるよう整備した。

放送大学は今迄、放送授業(インターネット配信もされている)と面接授業のみを提供してきたが、2015年4月にオンライン授業の提供を開始する。これはオンラインで授業を行うもので、インターネットを経由して議論を行ったり、確認テストを解いたりするもので、高い双方向性を確保しアクティブラーニングを実現する有効な手段として考えられている。もちろん、インターネット環境が整っていない、あるいはインターネットに習熟していない学生もいるため、それらを見極めながら整備を進めていく。

以上のように、2014年はインターネットの実質的な活用を、様々な場面で展開した年であり、放送大学の教育の新たな転換期になったと信じている。

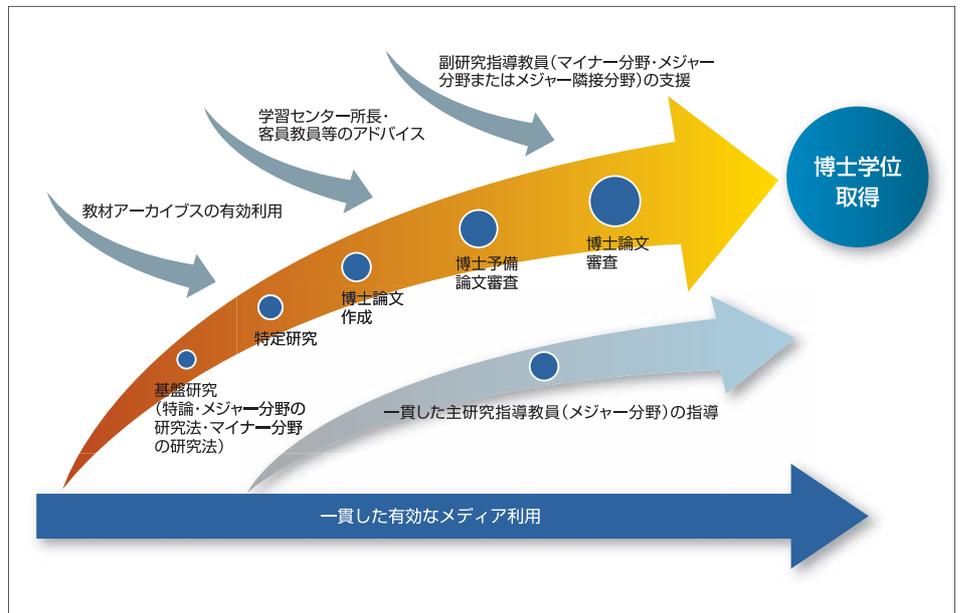
ぜひとも引き続き今後に期待していただきたい。

博士後期課程の開設

大学院博士後期課程の開設「より高度に」

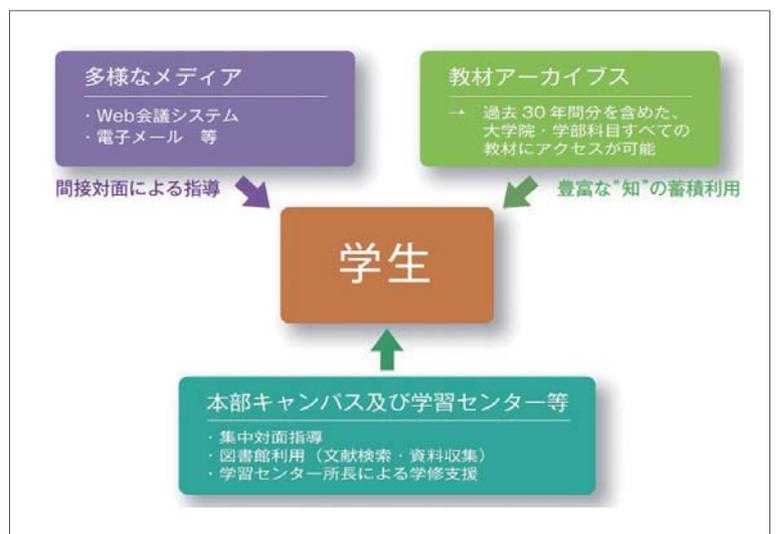
放送大学は2001年度に大学院修士課程を設置して、多くの職場や地域社会の問題に取り組む社会人の学生を指導し、一定の成果を上げてきた。しかしながら、日本の社会がますます複雑化・多様化するに伴い、新たな問題に対処するため、修士課程教育以上の高度な教育・研究を切望する声が年々高まっていた。そのような要請に応え、地域社会・職場等の課題解決のリーダーとなる実践的・高度社会人研究者、そして高い研究能力と知の発信能力をもった教養知識人研究者を養成するための博士後期課程の設置を申請し、2013年10月文部科学省より、大学院課程を変更し、1研究科、1専攻、5プログラム（「生活健康科学」「人間科学」「社会経営科学」「人文学」「自然科学」）からなる大学院博士後期課程

の設置が認可された。専任教員44人がその教育に参画することとなった。入学定員は10人、収容定員は30人である。博士後期課程の設置は、教養教育を標榜する通信制大学としては国内初のケースである。遠隔高等教育および生涯教育の知的水準を高めるためにも、全力で取り組まなければならないプロジェクトである。



時間・空間のバリアを克服して博士の学位取得を目指す

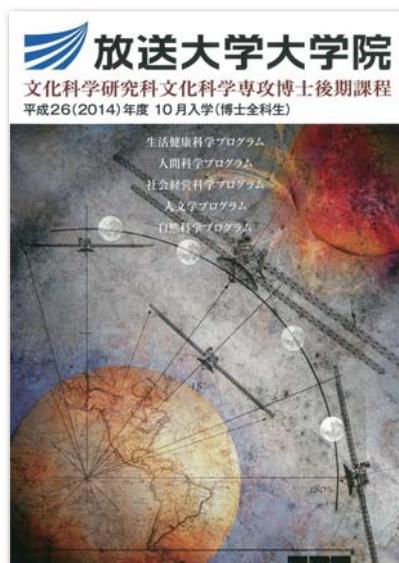
大学院文化科学研究科博士後期課程では、これまでの修士課程における通信制大学院の指導経験を最大限に生かし、本部キャンパスでの集中対面指導、情報通信技術を有効に用いた双方向研究指導、本部キャンパス及び全国に展開する学習センター等を利用した履修指導、豊富な“知”の蓄積としての教材アーカイブスの利用といった多様な教育機能を用いて、特色ある研究指導を行う。



第1期生の入学

修士の学位若しくは専門職学位を有する方またはこれと同等以上の学力があると認められた方に対し、入学者選考を行った上で入学。いずれか一つのプログラムに所属して学習・研究を進める。修了するためには、3年以上在学し、所定の単位数以上を修得し、かつ、博士論文の審査及び口頭試問に合格すると修了となり、博士(学術)の学位が授与される。

第1期生の入学が2014年10月に決まり(2014年度のみ、2015年度以降の入学の時期は毎年1回、4月)、2014年4月11日～25日が出願期間となった。初年度の応募は定員10名に対し約20倍という高倍率となった。第1期の入学者は定員を若干上回る12名となった。12名の新入院生は「社会人研究者」として、生涯学習の新たな高いステージに挑むこととなる。



オリエンテーションの開催

2014年10月4日千葉県幕張の放送大学本部附属図書館で、第1期生を迎え初めての入学時オリエンテーションが開催された。各プログラムについて主任の教員

から紹介があり、これから始まる博士後期課程履修カリキュラムの説明があった。午前のオリエンテーション終了後、午後には各プログラム別に特論の授業が行われた。



オリエンテーションの様子



自然科学プログラム特論



生活健康科学プログラム特論

充実した教育内容

テレビ・ラジオによる授業

放送授業

放送授業は、面接授業と並び、放送大学の教育の中心に位置づけられるものである。2014年度第2学期(2014年10月～2015年3月)には、学部267科目、大学院65科目の合計332科目を開講しており、原則として4年間(毎年2学期間ずつ、合計8学期間)放送している。したがって、全開講科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わる。

2014年度の新規開設科目は、学部55科目(テレビ28科目、ラジオ27科目)、大学院11科目(テレビ6科目、ラジオ5科目)の合計66科目である。

2014年度全開講科目数

	第1学期		第2学期	
	テレビ科目	ラジオ科目	テレビ科目	ラジオ科目
学部	155	112	155	112
	267		267	
大学院	21	44	21	44
	65		65	
合計	176	156	176	156
	332		332	

2014年度新規開設科目一覧(学部)(TV=テレビ、R=ラジオ)

大区分	中区分	小区分	科目名称	メディア	
基礎科目			歴史と人間('14)	TV	
			初歩からの生物学('14)	TV	
			哲学への誘い('14)	R	
共通科目	一般科目	人文系	教育心理学概論('14)	R	
			日常生活のデジタルメディア('14)	TV	
		自然系	情報ネットワーク('14)	R	
			情報社会の法と倫理('14)	R	
			解析入門('14)	R	
			入門線型代数('14)	TV	
	外国語	中国語	中国語I('14)	TV	
			中国語II('14)	R	
	専門科目	生活と福祉	生活	食安全科学('14)	TV
				リスク社会のライフデザイン('14)	R
健康			臨床家族社会学('14)	R	
			災害看護学・国際看護学('14)	TV	
			感染症と生体防御('14)	R	
			地域福祉の展開('14)	TV	
福祉		アジアの社会福祉と国際協力('14)	R		
		心理と教育	教育	肢体不自由児の教育('14)	TV
心理			学力と学習支援の心理学('14)	TV	
			錯覚の科学('14)	TV	
	心理学研究法('14)		R		
臨床心理	社会心理学('14)	R			
社会と産業	社会・経済	認知行動療法('14)	TV		
		社会と銀行('14)	TV		
	法律・政治	国際法('14)	R		
		著作権法概論('14)	R		
		管理会計('14)	R		
		アグリビジネスと日本農業('14)	R		
	社会技術	産業・経営	大学マネジメント論('14)	R	
		都市・建築の環境とエネルギー('14)	TV		
		人間と文化	日本美術史('14)	TV	
		ドイツ哲学の系譜('14)	R		

大区分	中区分	小区分	科目名称	メディア	
専門科目	人間と文化	歴史・地域文化	南北アメリカの歴史('14)	TV	
		文学・言語文化	和歌文学の世界('14)	TV	
		ヨーロッパ文学の読み方ー古典篇('14)	R		
		人類学・比較文化	文化人類学('14)	TV	
	情報	ソフトウェア	ソフトウェアのしくみ('14)	TV	
			情報数理	記号論理学('14)	TV
			数値の処理と数値解析('14)	R	
		ヒューマン	情報社会のユニバーサルデザイン('14)	TV	
			情報化社会と教育('14)	R	
			情報基盤	情報のセキュリティと倫理('14)	TV
自然と環境	物質・エネルギー	コンピュータのしくみ('14)	TV		
		通信概論('14)	R		
	宇宙・地球	場と時間空間の物理('14)	TV		
		生活と化学('14)	R		
総合科目		太陽系の科学('14)	TV		
		安全・安心と地域マネジメント('14)	TV		
		途上国を考える('14)	TV		
		国際ボランティアの世紀('14)	TV		
		死生学入門('14)	R		
		技術マネジメントの法システム('14)	R		

2014年度新規開設科目一覧(大学院)

プログラム名	科目名称	メディア
生活健康科学	福祉政策の課題('14)	R
	生活支援の社会福祉('14)	R
臨床心理学	家族心理学特論('14)	TV
社会経営科学	人的資源管理('14)	TV
	社会的協力論('14)	R
人文学	中世・ルネサンス文学('14)	R
情報学	21世紀メディア論('14)	TV
	知的創造サイクルの法システム('14)	R
自然環境科学	現代生物科学('14)	TV
	物質環境科学('14)	TV
	宇宙・自然システムと人類('14)	TV

特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義を行っている。

2014年度は新規開設15講義(テレビ6講義、ラジオ

9講義)を含む、全96講義(テレビ44講義、ラジオ52講義)の特別講義を放送した。

2014年度新規開設特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
公共人類学—人類学の社会貢献	東京大学名誉教授・帝京平成大学教授 山下 晋司	TV
伝承芸能の魅力—薩摩川内市の東郷文弥節人形浄瑠璃—	前放送大学鹿児島学習センター所長 中山 右尚	TV
女性アスリートの育成と支援、その課題	順天堂大学大学院教授 小笠原 悦子	TV
脳波で動く 1/f ゆらぎ癒しロボット	茨城学習センター所長 白石 昌武	TV
遷移金属触媒の魔法の力 ~サステナブルな21世紀への鍵~	パデュエ大学特別教授 根岸 英一	TV
ウナギ 大回遊の謎を追う	東京大学大気海洋研究所教授 塚本 勝巳	TV
メディアと与謝野晶子	歌人 松村 由利子 放送大学教授 広瀬 洋子	R
心に響く音文化(おんぶんか) 第1回「民族音楽学への招待」 第2回「中東の音文化」	兵庫教育大学名誉教授 水野 信男	R
幻の私小説家・藤澤清造	作家 西村 賢太	R
つなぐ言葉としての方言—3.11被災地から—	東北大学大学院文学研究科教授(国語学) 小林 隆	R
音楽表現と情報環境	音楽家 武川 行秀	R
ことばの礼儀作法 第1回「日常会話の点検(前編)」 第2回「日常会話の点検(後編)」	元NHKエグゼクティブアナウンサー 梅津 正樹	R
東日本大震災からの復興に携わって—復興構想会議を中心に—	神戸大学名誉教授 五百旗頭 真	R
「記憶を記録に／津波で失われた写真の回収、修復、保存、返還作業」	放送大学教授 高橋 和夫	R
岡潔の生涯と学問	九州大学マス・フォア・インダストリ研究所准教授 高瀬 正仁	R

インターネット配信

2007年度から、在学生用ホームページ(キャンパス・ネットワーク・ホームページ)で、授業科目のインターネット配信(ストリーミング配信)を開始した。配信科目数は年々拡充しており、ラジオ科目ではすべての科目をインターネット配信している。2014年度の配信科目数は、テレビ158科目、ラジオ156科目、特別講義82講義である。

2014年度のインターネット配信科目数

	テレビ	ラジオ
学 部	142	112
大 学 院	16	44
特別講義	30	52
合 計	188	208

寄附科目

放送大学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2014年度には、5科目の寄附科目を放送した。

2014年度開設寄附科目一覧

科目名	寄附団体名	メディア
著作権法概論('14)	日本音楽著作権協会	R
消費者と証券投資('11)	日本証券業協会	TV
組織運営と内部監査('13)	日本内部監査協会	TV
社会と銀行('14)	全国銀行協会	TV
薬物治療に貢献する ~病院薬剤師の役割~ (特別講義)	日本病院薬剤師会	TV

対面による授業

面接授業(スクーリング)

面接授業は、放送授業とともに放送大学の教育の中心に位置づけられるものであり、全国50カ所の学習センターと7カ所のサテライトスペースで開講している。2014年度は、3,045科目(1学期1,475科目、2学期1,570科目)を開講している。

放送大学の専任教員や地元の大学教員等による対面での授業であり、教員と学生の交流だけでなく、学生同士の出会い、共に学ぶ楽しさを共有できる機会ともなっている。

授業内容は、教養学部という特性に応じた幅広い学問分野に富んでおり、授業形態も通常の講義形式だけでなく、実験やフィールドワークなど多彩な形態で開講している。

また、単独の学習センターのみの開講だけでなく、各地域の特色を生かしたテーマの下でブロック間の学習センターが連携し、リレー形式でも開講している。

2014年度は、入学生も出願手続きの際、一定の条件を満たせば、入学学期当初から面接授業を登録申請できるよう制度を改正した。

さらに、学生ニーズの高い認定心理士資格取得に必要な「心理学実験科目」を、東京文京学習センターにおいて連日授業を開講する特別開講を開始した。

このように意欲ある学生に、できるだけ多くの学習機会を提供できるよう制度の見直し、学生サービスの向上を常に図っている。



岐阜学習センター「さまざまな食育」



熊本学習センター「表現・鑑賞トレーニング」

オープンコースウェア

オープンコースウェア(OCW)とは「大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動」のことである。

学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された放送大学は、オープンコー

スウェアの理念に賛同し、2009年日本オープンコースウェアコンソーシアムに正会員として参加した。放送大学の放送授業は全部で約300科目あり、2014年度からはほとんどの授業科目について、1番組または全15番組をインターネットで無償公開している。

2014年度オープンコースウェア科目(全15番組)一覧

テレビ授業科目		ラジオ授業科目	
科目名	講師	科目名	講師
場と時間空間の物理('14)	米谷 民明/岸根 順一郎	哲学への誘い('14)	佐藤 康邦
コンピュータのしくみ('14)	岡部 洋一	リスク社会のライフデザイン('14)	宮本 みち子/岩上 真珠
人的資源管理('14)	原田 順子/奥林 康司	感染症と生体防御('14)	田城 孝雄/北村 聖
組織運営と内部監査('13)	齋藤 正章/蟹江 章	社会心理学('14)	森 津太子
計算事始め('13)	川合 慧	福祉政策の課題('14)	大曾根 寛
地域社会の教育的再編('12)	岡崎 友典/夏秋 英房	社会福祉と権利擁護('12)	大曾根 寛
市民生活と裁判('12)	來生 新/川島 清嘉	人格心理学('09)	大山 泰宏
発音をめぐる冒険('12)	井口 篤/ステュウット・ヴァーナム・アットキン	日本文学の読み方('09)	島内 裕子
デジタル情報の処理と認識('12)	柳沼 良知/鈴木 一史	環境と社会('09)	鈴木 基之/植田 和弘
初歩からの数学('12)	隈部 正博	公衆衛生('09)	多田 羅 浩三/瀧澤 利行
循環器病の健康科学('11)	多田 羅 浩三/吉川 純一	北東アジアの歴史と朝鮮半島('09)	吉田 光男
社会学入門('10)	森岡 清志	心理・教育統計法特論('09)	福田 周/卯月 研次
空間とベクトル('09)	松本 幸夫/川崎 徹郎	特別講義 ジャーナリストの父、タレントの息子 ～明治日本に貢献したブラック親子～	柏倉 康夫
特別講義：日本漫画と文化多様性 ～世界に拡散する絵物語コミュニケーション～【日本語版】	出口 弘	特別講義 世界の名著を読む 国富論から学ぶ	竹本 洋
特別講義：日本漫画と文化多様性 ～世界に拡散する絵物語コミュニケーション～【英語版】 Japanese Manga & Cultural Diversity ～World Diffusion of Visual Narrative Communication～	Hiroshi Deguchi	特別講義 人と動物のかかわり 1. 身近な動物	石橋 正彦
特別講義：国際ボランティア学への招待	山田 恒夫, 川嶋 辰彦 内海 成治, 小川 寿美子	特別講義 人と動物のかかわり 2. ネズミの話	石橋 正彦
		特別講義 地球上最大の動物、クジラ	大隅 清治

誰もが心地よく学べるために

特別な支援が必要な学生への学習支援

放送大学では、いかなる学生に対しても学習機会が阻害され不利益が生じることのないよう、さまざまな学習支援体制の整備を進めている。例えば、聴覚障がいがある学生への支援としてテレビ授業科目における字幕番組を提供している。2014年度第2学期に字幕を付して放送を行った授業は86科目あり、これは全テレビ科目の約49%にあたる。特別講義についても44科目全てに字幕を付して放送を行った。

また単位認定試験時には、ハンディキャップの程度

に応じて、別室受験、試験時間の延長等の特別措置を講じている。たとえば、2014年度第1学期単位認定試験における音声出題の対象科目数は123科目で、対象となった学生数は延べ198名であった。また、点字での出題対象科目数は101科目であり、対象となった学生数は延べ150名であった。その他、必要に応じて、特別支援学校、病院においても単位認定試験を実施しており、2014年度第1学期は7名(延べ16名)の学生が受験した。

ディスカバリーサービスの導入

附属図書館では、学生の学習支援機能を強化するため、2014年9月29日から、ディスカバリーサービスを開始した。

ディスカバリーサービスとは、一つの検索窓から様々な学術情報(学術論文、図書・雑誌、電子ジャーナル等)が一度に検索できる便利なツール。放送大学ディスカバリーサービスを利用すると、放送大学で所蔵している図書や雑誌と電子ブック、電子ジャーナル等を一度に検索できる。放送大学の学生は、検索結果から、電子ブックや電子ジャーナルの本文を読んだり、図書の取寄せ、論文のコピー等を申し込むことができる。学術情報の発見と入手の手段として活用が期待される。

*ディスカバリーサービスの利用は

附属図書館トップページ(<http://lib.ouj.ac.jp/>)から



学術情報を効果的に利用するために

『リブナビプラス 院生のための学術情報探し方ガイド』

附属図書館では、大学院生等が研究を進める上で必要な学術情報を効率的に探すことができるように、教員の協力を得てガイドブックを作成した。

このガイドブックでは、附属図書館で導入している電子ブックや、電子ジャーナルをはじめ、無料で公開されている学術情報関連のWebサイトなども紹介している。学外からのアクセス方法や利用の可否

の説明を充実させ、自宅等の遠隔地からでも活用できるような構成とした。

『リブナビプラス』は、附属図書館ホームページ(<http://lib.ouj.ac.jp/>)で閲覧・ダウンロードができる。



科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)の拡充

放送大学では、2006年度から本学独自の制度として、科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)を導入した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修した学生に対して、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを証明するものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明制度」が規定されたことを機に、2008年度からは、この「履修証明制度」に対応するものとして再スタートしている。

当初10プランで始まった本制度だが、その後、毎年新しいプランを創設し、2014年度は27プランとなっている。

取得認証数は、2006年度223、2007年度1,092、2008年度2,848、2009年度2,552、2010年度2,496、2011年度2,250、2012年度2,552、2013年度2,179、2014年度は2,006となっている。2015年3月31日までの累計取得数は18,198にのぼっており、学生の修学目標の一つとして定着していることがわかる。

2014年度認証プランと認証状取得者数(2015年3月31日現在)

認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
1 健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	2,099
2 福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	1,906
3 社会生活企画プラン	社会企画士	1,006
4 食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	585
5 心理学基礎プラン	心理学基礎	2,402
6 臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	852
7 社会探究プラン	現代社会の探究	449
8 市民活動支援プラン	市民政策論	466
9 実践経営学プラン	経営の理解	468
10 ものづくりMOTプラン	ものづくりとMOT(技術経営)を学ぶ	257
11 次世代育成支援プラン	次世代育成支援	1,058
12 コミュニティ学習支援プラン	地域生涯学習支援	268
13 異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	763
14 アジア研究プラン	アジア研究	307
15 日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会	433
16 宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	457
17 生命科学プラン	生命人間科学	695
18 環境科学プラン	環境科学の基礎	568
19 社会数学プラン	数学と社会	267
20 エネルギー・環境研究プラン	エネルギー環境政策論	234
21 芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	889
22 歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	1,085
23 自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	359
24 工学基礎プラン	工学基礎	210
25 人にやさしいメディアデザインプラン	人にやさしいメディアのデザインプラン	19
26 計算機科学基礎プラン	計算機科学の基礎	28
27 地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材	68
合計		18,198

他機関への教育支援

単位互換の取り組み

本学は、全国の教育機関と積極的に単位互換協定を進めている。2014年度には、新たに1校の大学、及び2校の高等専門学校と単位互換協定を締結し、合計381校となった。

2014年度に締結した単位互換協定締結校

大学等名
新潟リハビリテーション大学
一関工業高等専門学校
群馬工業高等専門学校

専修学校との連携協力

本学では、専修学校専門課程と連携協力を実施し、専修学校専門課程に在籍しながら学士(教養)の学位を取得できる制度を設けている。

2014年度も新たに4校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、合計で29校となった。

2014年度に締結した連携協力校(専修学校)

学校名
長野医療衛生専門学校
早稲田文理専門学校
秋田リハビリテーション学院
弘前市医師会看護専門学校

キャリアアップを支援する

資格取得

放送大学で修得した単位は、以下の資格取得のために活用することができる。

看護師国家試験受験資格、教員免許状の上位・他教科・隣接校種の免許状、学校図書館司書教諭資格、特別支援学校教諭二種免許状(知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域)、養護教諭免許状、栄養教諭免許状、学芸員資格、社会教育主事任用資格、社会福祉主事任用資格、介護教員講習会の対応科目

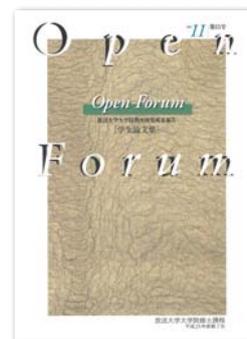
学芸員資格に関しては、博物館法施行規則改正により、2012年度から9科目19単位の修得が必要となったが、放送大学では、博物館実習を除く8科目(うち2科目は2013年度から開講)を開講して対応することとなった。

博物館実習についても、2012年度には、放送大学初の試みとして、岐阜女子大学との連携による博物館実習講座の開講が実現した。これは、一定の要件を満たした放送大学生向けに岐阜女子大学が講座を開講するものであり、2014年度には全国から15名の学生が受講した。また、2009年度からの教員免許更新講習制の実施に伴い、放送大学でも教員免許更新講習を実施している。本学の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びインターネットを利用し、全国どこでも講習の受講が可能となっている。この講習は、毎年2回(夏期及び冬期)実施することとしており、2014年度の講習では、約8,000人の受講者が、延べ約29,000科目を受講した。

学生の研究成果の公開

放送大学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開講しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度より、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパスネットワークホームページで開始した。2014年度は、2013年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」28点を公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を2005年3月より刊行している。在学生や今後の入学者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員の自己点検・自己評価、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2015年3月刊行の第11号には2013年度修了生全320名の研究成果の中から、論文11点、研究ノート43点が掲載されている。



Open Forum 11号

放送大学第7回学生エッセイコンテスト

日頃から自分の考えていることや感じたことなどをエッセイを通して表現すること、並びに学生からの意見や主張を通して本学の学生や教職員、関係者をはじめ広く社会へ発信することを目的として2008年から実施している。第7回を迎えた本年度は「放送大学の学びを生かした私の地域貢献」というテーマの募集に対し54点の応募があり、選考委員会において厳正な審査を行った結果、11点の入賞作品を選んだ。

応募者の年齢は21歳から81歳と幅広く、所属する学習センターなども全国32センターにわたっていた。応募作品はいずれも素晴らしい作品であった。

賞	受賞者	作品名	学習センター サテライトスペース
最優秀	橋爪 丈博	「放送大学の学びを生かした私の地域貢献」	東京文京
優秀	相沢 宏之	「主役は住民 提案型の復興まちづくりへ」	新潟
	三ッ國 全代	「ナリジブ」	鳥取
佳作	三好 信子	「卒業研究が繋げてくれた私の地域貢献」	山口
	大野 泰枝	「子どもたちに本当の自信を」	北海道
	岡里 順子	「エキスパートの学びで得た知識を地域貢献に向けて」	埼玉
	尾仲 敏郎	「放送大学での学びと自治会活動」	姫路
	平井 正典	「日本語を教える」ということ	大阪
	松岡 絵美衣	「学びと私の役目」	兵庫
	森 昭生	「地域への私流「ささやか貢献」」	佐賀
森戸 秀次	「～仲間とともに学ぶ～」	京都	

注1) 各賞毎の氏名は、五十音順です。

注2) 学習センター・サテライトスペースは、応募時のものです。

より質の高い教育を目指して

じっくり3年かけて授業科目を作成

本学では毎年、何十もの放送授業を新たに開設している。1つの放送授業を開設したら、4年から6年程度で内容を見直しをするからである。閉講して別の放送授業を新設する場合もあれば、既存の内容に新しい情報を加えて改訂する場合もある。そのため、放送授業を担当する講師は、次はどのような内容にするか、どの講師と一緒に教材をつくるかを考えていかなければならない。

下の図のように、授業開始（開講）の3年ほど前から構想を練りはじめ、「このような科目をつくりたい」と大学側に提案する。科目開設が決定すると、「主任講師会議」を開いてスケジュールの確認、編集者等との顔合わせをする。

印刷教材は、授業番組の回数に合わせて15章で構成されており、担当する講師が分担して執筆する。主な内

容や分担を決め、締切などのスケジュールを確認したら、原稿執筆に取りかかる。原稿の締切は、授業開始のおよそ1年半前。

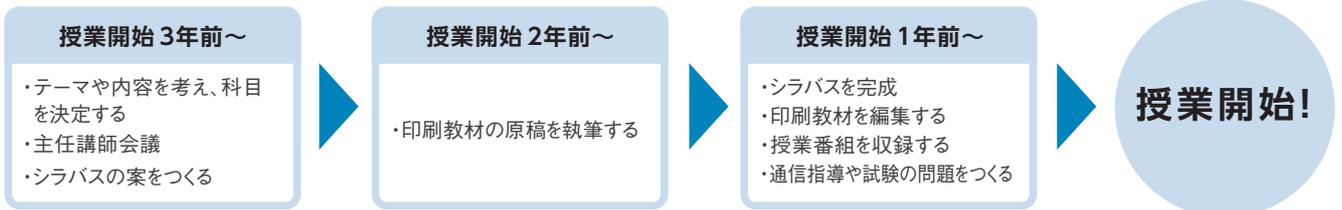


主任講師会議

開講の1年前から、授業番組づくりに入る。スタッフの多くは、教育番組等を制作してきたベテラン。プロデューサーやディレクターと打ち合わせをし、どのような番組構成にするかを決めていく。そして、必要な素材を集め、台本をもとにスタジオでの収録に臨む。

このように約3年間をかけ1つの授業科目は作成される。

授業科目づくりの主な流れ



FD(Faculty Development)の取り組み

FD(Faculty Development)の一環として、2015年2月18日(水)にFD委員会主催で講演会を開催した。

今年度は、テストメソッドをテーマとした講演及び本学単位認定試験の検討課題についての講演を、外部の講師及び担当副学長が行った。

株式会社学研ホールディングス学研教育総合研究所の劉東岳先生からは、CBT-ICT時代における新しいテストのあり方についての講演があった。

宮本みち子副学長からは、本学単位認定試験の検討課題として、どのようにして試験問題のミスを最小限にするかについての講演があった。

2講演の終了後、参加者からの質疑応答があり、活発な議論が展開された。

THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN

2014年度 FD講演会

日時: 2015年2月18日(水) 13:30~14:30
場所: 放送大学 附属図書館3階大会議室

プログラム:

13:30 開会

13:30-14:10 講演
株式会社学研ホールディングス学研教育総合研究所 劉東岳 先生
「CBT-ICT時代における新しいテストのあり方」
(質疑応答)

14:10-14:30 講演
放送大学 宮本みち子 副学長
「本学単位認定試験の検討課題: ~ 試験問題のミスを最小限にする ~」
(質疑応答)

14:30 閉会

主催: FD委員会
問合せ先: 学務部教務課教務係(内線4264)

※ 本学の教職員であれば、どなたでもご参加いただけます。
※ 単位の申し込みは不要です。
参加希望の方は、当日直接会場にお越しください。

ICTを活用した教育の支援

遠隔会議サービスによる修士課程ゼミ

放送大学の授業には放送授業と面接授業が存在するが、一方で、卒業研究や修士課程・博士後期課程での研究指導（論文執筆指導）も行われている。

このような遠隔の研究指導をうける学生のために、ウェブ会議サービスを整備している。このサービスは、ASP（アプリケーション・サービス・プロバイダ）方式で（株）ブイキューブと契約をしている。これは、学内にテレビ会議システム用のサーバを保有・運営するのではなく、ウェブ会議用のサーバを利用する権利を契約によって取得する方式である。放送大学のように、利用が週末に集中する環境では、専門的な知識や保守を学内で行う必要がないASP方式のメリットが高い。

実際には、遠隔による研究指導やゼミを行うことが決まり次第、専任教員が実施日と時間を定めて利用申請を行う。その後、事業者のサーバを利用するために必要なURLと「ゼミID」が発行される。ゼミの参加者はパソコンのウェブブラウザで指定されたURLを開いて

「ゼミID」を入力すると、パソコン内蔵（あるいは外付）のビデオカメラとマイクロフォンからの映像と音声、ウェブ会議サービスの中に投影される。参加者のパソコンに専用のソフトウェアをインストールしなくても、気軽に参加できるというメリットがある。また、タブレットで使う場合には、このウェブ会議サービス専用のアプリがあり、パソコンよりも簡単な手順で利用可能となっている。



ウェブ会議サービスの画面

ソーシャル・ネットワーキング・サービスを利用した交流

放送授業での学習は、自宅や学習センターで、ひとりで学ぶことが多く、従来は、ともに学ぶ「学友」は、学習センターで会うしかない状態であった。

だが、近年、インターネットの利用者が増大し、また、インターネットに接続して利用できる機器が、従来のパソコンのみならず、タブレットや、スマートフォンなどにも広がった。これらの機器は、簡単に取り扱うことができ、また、導入費用も下がっている。そのため、多くの人が、インターネットを利用した交流によって、意見交換をしたり、精神的に癒されたりすることが可能になった。特に、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を利用した交流が増加しつつある。

放送大学は、無料オンライン講座を提供する「日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）」に参加している。そこで、授業映像を提供するために、世界最大のSNSとして知られるフェイスブックに「放送大学JMOOCページ」を設けている。

また、放送大学のコース・学習センターの一部が、ツイッターやフェイスブックにページを開設し、情報公開を行っている。さらに、岡部学長、および、一部の教員がツイッターを利用して放送大学に興味を持つ一般の人や、在学生相互の交流に加わっている。



岡部学長のツイッター

放送大学における研究

特別研究と外部資金による研究

放送大学では、専任教員が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。また、特に研究の支援・推進のために特別研究費の制度を設けている。放送大学の発展に寄与する教育・研究プロジェクト、学術上あるいは大学運営に貢献する放送大学では、プロジェクト支援として、また教員個人の研究を支

援するためなどに資金面での支援をしている。

放送大学教育振興会など他からの助成基金も積極的に得て研究を進めている。

2014年度に特別研究として、また放送大学教育振興会・日本学術振興会の助成で実施した研究テーマは以下の通りである。

2014年度学長裁量経費Ⅰ（プロジェクト支援）決定者一覧

所属	職名	氏名	研究課題名
	副学長	小寺山 亘	放送大学における障害者支援システムの構築に関するプロジェクト
	副学長	宮本 みち子	放送大学に対する地域ニーズの探索と地域貢献の可能性を探る
生活と福祉	教授	大曾根 寛	保育士等福祉専門職の生涯学習支援に関する放送大学の役割
	教授	田城 孝雄	医学部・看護学部に必要なリベラルアーツ教育の調査
	教授	山田 知子	地域包括支援センターの相談窓口の実態と問題解決のための新たな地域拠点づくり学習センターとのコラボレーションの可能性
	准教授	戸ヶ里 泰典	保健・介護系大学院生に対する統計解析スキル支援教育プログラムの開発～自己学習ウェブサイトと統計解析演習授業の構築の試み
人間と文化	教授	稲村 哲也	学芸員資格科目の充実
	教授	草光 俊雄	移動と消費の歴史、国際研究交流と出版プロジェクト
	准教授	大橋 理枝	音声添削システムの機能向上のための調査研究
社会と産業	教授	坂井 素思	「放送大学地域研究シンポジウムの開催」および「地域研究データベースの作成」に関するプロジェクト
自然と環境	准教授	大森 聡一	オンライン科目「電子顕微鏡観察法および実験'17」実現のための環境整備
情報	教授	加藤 浩	推論妥当性検証学習ツール対話型タブローチェッカー「タブ朗」の機能改良
	教授	近藤 智嗣	情報学プログラムの広報・市場調査としてのMRイベントの開催
	准教授	辻 靖彦	潜在保育士を対象としたオンライン講義用教材の開発とピアノ演奏における教育手法改善を目的としたピアノ指導支援システムの構築と運用
図書館	図書館長	吉田 光男	図書館情報有効利用推進プロジェクト ～もう一歩上の活用を目指して～

2014年度学長裁量経費Ⅰ（研究助成）決定者一覧

所属	職名	氏名	研究課題名
生活と福祉	教授	井上 洋士	HIV陽性者を主体としたNGO連携型介入支援プログラムの開発・実践、及びエイズ対策の評価体制確立に関する研究
	教授	奈良 由美子	リスク社会における主体性と生活リスクリテラシーの構築に関する研究
社会と産業	教授	河合 明宣	インド経済圏内の食品流通システム展開方向と日本産農産物の流通可能性の究明—ブータンの事例研究—
自然と環境	教授	石崎 克也	複素関数方程式の有理型函数解の漸近挙動についての研究
情報	教授	仁科 エミ	ハイパーソニック・エフェクトの医療応用のためのシステムとコンテンツの研究開発
	准教授	浅井 紀久夫	拡張現実感を利用した情報提示手法の開発
	准教授	高橋 秀明	情報生態学：人間のプロセス制御行動を事例に

放送大学教育振興会助成による研究:多様なメディアの研究開発、教材及びシステム等の研究開発助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
社会と産業	教 授	坂井 素思	放送大学印刷教材等の教材アーカイブ化とアーカイブの大学院教育への応用
	教 授	高橋 和夫	中東を中心とする国際情勢のイシュー・地域横断的研究
情 報	教 授	児玉 晴男	ラジオ番組とテキスト情報とを融合したネット教材開発に関する研究
	准教授	辻 靖彦	潜在保育士のピアノ演奏基礎能力の習得を目的としたタブレット型ピアノ実技習得eラーニング教材の開発
	准教授	秋光 淳生	放送大学型アクティブ・ラーニングのための教材開発
	准教授	高橋 秀明	遠隔教授学習過程の記述:放送大学オンライン授業を対象に

放送大学教育振興会助成による研究:教材の海外への普及・協力事業助成、国際交流の促進事業助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
	副学長	来生 新	今後の大学教育におけるオンライン授業のあり方に関する調査
社会と産業	教 授	河合 明宣	放送大学のODL(公開遠隔学習)経験移転を軸にしたブータン王立大学シェルブツェ・カレッジとの国際交流プロジェクト
情 報	教 授	苑 復傑	チベット・内モンゴル地域における遠隔教育に関する実証研究 ―放送大学との交流と連携可能性について―

放送大学教育振興会助成による研究:機関特別推進研究等に係る助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
	副学長	来生 新	インターネット等を活用した新たな教育媒体の検討及び学習支援の充実等について

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)

所 属	職 名	氏 名	研究種目	研究課題名
人間と文化	教 授	稲村 哲也	基盤A	熱帯高地環境における家畜化・牧畜成立過程に関する学際的研究―アンデスを中心に
情 報	教 授	山田 恒夫	基盤A	生涯学習基盤としての大規模オンラインコース(MOOC)の構築と運用に関する研究
	副学長	宮本 みち子	基盤B	若者期の生活保障の構築に向けた国際比較研究～社会的に排除される若者層を中心に～
生活と福祉	教 授	大曾根 寛	基盤B	障害をめぐるEUの政策と各国の相互作用に関する国際比較研究―社会的包摂に向けて―
	教 授	井上 洋士	基盤B	HIV陽性者のヘルス・プロモーション支援に向けた当事者参加型調査研究
	准教授	戸ヶ里 泰典	基盤B	全国代表サンプルによるストレス対処力SOCを規定する社会的要因に関する実証研究
心理と教育	教 授	小川 正人	基盤B	2000年代以降の分権・行財政改革下における地方教育行財政の変容に関する調査研究
自然と環境	教 授	岸根 順一郎	基盤B	カイラル結晶構造に宿る新磁性機能の探索
情 報	教 授	加藤 浩	基盤B	多人数講義におけるアクティブ・ラーニングを支援するグループウェアの開発
	教 授	近藤 智嗣	基盤B	コンピュータビジョンと行動分析による複合現実感展示システムのインテリジェント化
	准教授	浅井 紀久夫	基盤B	技能伝承のための触力覚分散協調訓練の生体信号適応制御による円滑化
生活と福祉	教 授	小城 勝相	基盤C	酸化ストレスの生体影響に基づく新規機能性食品の開拓
	准教授	川原 靖弘	基盤C	高齢者の介護予防に向けた生活空間評価方法の研究
心理と教育	准教授	森 津太子	基盤C	“目”という社会的手がかりが向社会的行動に与える影響
人間と文化	教 授	宮下 志朗	基盤C	「文芸の共和国」としてのブランタン＝モレトゥス工房の総合的研究―第三期
	教 授	内堀 基光	基盤C	家族史から接近するサラワク・イバン社会におけるモダニティの形成
社会と産業	教 授	梅子野 晁	基盤C	3DCAD対応数値シミュレーションを取り入れた建築環境設計の授業プログラムの開発
	准教授	斉藤 正章	基盤C	音楽産業の国際経営とその課題
自然と環境	教 授	二河 成男	基盤C	昆虫類核ゲノムに転移した細菌由来遺伝子群の探索とその進化的役割

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)

所属	職名	氏名	研究種目	研究課題名
自然と環境	教授	加藤 和弘	基盤C	都市緑地内のバードサンクチュアリは鳥類の生息場所として寄与するか
	准教授	大森 聡一	基盤C	単鉱物地質温度圧力計体系の確立
情報	教授	青木 久美子	基盤C	ICTを活用した「ジェネリックスキル」の効果的育成に関する調査研究
	教授	近藤 喜美夫	基盤C	防災意志決定訓練のための臨場感提示環境とコンセプトマップによるシナリオ作成支援
	教授	苑 復傑	基盤C	中国高等教育の「国際合作」の構造と機能
	教授	黒須 正明	基盤C	製品・サービスの意味性を明らかにするビジネスマイクロエスノグラフィ手法の開発
	准教授	鈴木 一史	基盤C	局所形状特徴に基づく3次元物体モデルの分類と検索
	准教授	芝崎 順司	基盤C	映像視聴反応可視化システムの開発と双方向型・協調学習利用に関する研究
	准教授	秋光 淳生	基盤C	社会人の自発的協同学習を誘発するオンライン学習環境の開発
生活と福祉	教授	井上 洋士	挑戦萌芽	患者向けネット上情報とバーチャルコミュニティの再構成、及びその効果についての研究
	教授	井出 訓	挑戦萌芽	認知症高齢者を介護する家族介護者の離職に関する現状分析とサポートシステムの構築
	准教授	戸ヶ里 泰典	挑戦萌芽	慢性疾患患者を対象としたストレス対処力向上プログラムの構築
情報	教授	加藤 浩	挑戦萌芽	状況内評価における評価表出行動自動収集分析システムの研究
	教授	柳沼 良知	挑戦萌芽	ユーザ適応型オンライン教科書の自動生成に関する研究
人間と文化	准教授	井口 篤	若手B	ラテン語宗教テキスト Stimulus Amoris (c. 1300)の校訂
情報	准教授	葉田 善章	若手B	映像マルチメディアによるアノテーションを使ったモバイル学習環境の構築
	准教授	辻 靖彦	若手B	個人と組織による授業改善を支援する分散型ラーニング・デザイン作成支援環境の構築

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は放送大学の専任教員が日ごろの研究成果を発表する場である。2014年版を2015年3月に発行した。

2014年度放送大学研究年報(第32号)著者及び論題一覧

著者	論題
大曾根 寛	フランスにおける障害者の権利に関する新しい法律(2005年)と障害者のための労働政策
佐藤 仁美	かたちづくることの意味 ～芸術療法におけるpapier colléとdécoupés～
坂井 素思	日本人の職業キャリアには どのような特徴があり、いかに変化しているのか
稲村 哲也・木村 友美・奥宮 清人	ヒマラヤ・ラダーク地方における 高所適応とその変容(1)－生業と食を中心に
奥宮 清人・稲村 哲也・木村 友美	ヒマラヤ・ラダーク地方における 高所適応とその変容(2)－生活習慣病を中心に
黒須 正明	UXカーブに見る放送大学学生の満足度の動的変化
広瀬 洋子	放送大学の新しい挑戦:障害者支援の現状と課題
三輪 眞木子・仁科 エミ・黒須 正明・ 高橋 秀明・柳沼 良知・広瀬 洋子・秋光 淳生	放送大学におけるデジタル・リテラシー教育: 習得スキルの定着
石崎 克也	複素領域における振動問題について
吉岡 一男・松田 利通	2つのおうし座RV型変光星、 ヘルクス座AC星とおうし座TV星の化学組成の決定
上野 達彦	哲学者・モイセア マトビービッチ ルービンシュタインの生涯
島内 裕子	『徒然草吟和抄』の注釈態度



放送大学研究年報 第32号

研究成果の発表・普及【書籍】

放送大学の専任教員・学習センター所長は、研究の成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の書籍を編集・執筆している。また辞書・辞典の編纂も行っている。これらの書籍は市販されていて購入することが可能である。また、放送大学や公共の図書館な

どに所蔵されているので、閲覧可能である。放送授業や印刷教材の内容とは異なり、より専門的かつ先進的な内容を含んでいるので、各教員が日々取り組んでいる研究テーマや研究活動・成果に深く触れる絶好の機会となるので積極的に手にとってみて欲しい。

専攻・氏名		書籍名・辞典名	出版社
副学長	宮本 みち子	日本の若者政策：現状と課題（岩上真珠 編） 国際比較 若者のキャリア	新曜社
生活と福祉	関根 紀子	平成25年度 体力・運動能力調査報告書（内藤久士、廣津信義、関根紀子 他）	文部科学省
心理と教育	小川 正人	解説 教育六法 — 平成27年度版 —（共編修）	三省堂
	小野 けい子	育児期の母親の母性意識と就業に関する研究	松山大学総合研究所
社会と産業	梅干野 晁	スマートシティ時代のサルテナブル都市・建築デザイン 第4章、4-2-4、ヒートアイランド解析と対策技術（日本建築学会 編）	彰国社
人間と文化	稲村 哲也	草原と都市 — 変わりゆくモンゴル（共編著）	風媒社
		レジリエンスと地域創生 — 伝統知とビッグデータから探る国土デザイン（分担執筆）	明石書店
	内堀 基光	果てしなき果てをめざして、 宇宙人類学への挑戦 — 人類の未来を問う（岡田浩樹、木村大治、大村敬一 編）	昭和堂
		「民族」とは何だろう 学術の動向	日本学術会議, 2014年7月号
	島内 裕子	英国の青年（編集・解説）	講談社文芸文庫
		徒然草 美術で楽しむ古典文学	サントリー美術館
	滝浦 真人	話し言葉と書き言葉の接点	ひつじ書房
	宮下 志朗	ルネサンスと新生 — ベトラルカとボッカッチョの書物愛と友情 （高桑和巳 編） 生命の教養学X 新生	慶應義塾大学出版会
		翻訳者の使命 — 古典の継承のために （西永良成、三浦信孝、坂井セシル 編） 日仏翻訳交流の過去と未来	大修館書店
		モンテニュー「エッセー6」	白水社
フランス・ルネサンス文学集1（宮下志朗、伊藤進、平野隆文） 【編集主幹ならびに、デ・ペリエ「キュンバルム・ムンディ」邦訳など】		白水社	
情報	児玉 晴男	研究開発プロジェクトの成果物の権利の帰属 「知的財産イノベーション研究の諸相」（日本知財学会知財学ゼミナール編集委員会 編）	コンテンツ・シティ出版
		ソフトウェアのデジタル権利管理	パテント(日本弁理士会), Vol.67, No.8
	三輪 眞木子	Quality Assurance in LIS Education（編集）	An International and Comparative Study, Springer
GlobalLIS: Toward the regional cooperation in the Education of library and information professionals in the Asia-Pacific Region,		An International and Comparative Study. Springer	
北海道学習センター	筑和 正格	シニアが拓く未来 — 延ばそう健康寿命 いつまでも社会とのつながりを！（共著）	美巧社
東京足立学習センター	柴 眞理子	幼児の身体表現活動における擬音語・擬態語の活用 — フレーズに着目して —	十文字学園女子大学 人間生活学部紀要 第12巻
石川学習センター	鹿島 正裕	チュニジア近現代史 — 民主的アラブ国家への道程 — （ケネス・パーキンス 著／翻訳出版）	風行社

研究成果の発表・普及【論文】

大学教員の教育の原動力になるものは専門の研究である。ここから湧き出る問題を追い求める力が、忍耐力を高め、新たな発見を生み出す。放送大学の専任教

員・学習センター所長は、各分野・領域における専門家である。研究論文は審査を受け学術雑誌から世に放たれる。2014年度に発表された、学術論文を紹介する。

専攻・氏名	論文名	発表(雑誌ほか)
生活と福祉	小城 勝相 S-Isovaline contained in meteorites, induces enantiomeric excess in D,L-glutamic acid during recrystallization. S. Kojo, Origin Life Evol. Biosph., DOI 10.1007/s11084-015-9407-8	Published online: 11 Mar., 2015
	田城 孝雄 The determination of Medicine Cost in Japanese prefecture. Masayuki Yokoi, Takao Tashiro	Global Journal of Health Science, Vol. 6, No. 4, in July 2014
	心へのケア活動の視点から考える被災地における望ましい支援のあり方 東日本大震災被災者への面接調査からの一考察、(櫻木初美、田城孝雄)	保健師ジャーナル 11月号 2014
	関根 紀子 Heat stress protects against mechanical ventilation-induced diaphragmatic atrophy. Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Kakigi R, Sugiyama T, Powers SK, Naito H.	J Appl Physiol (1985). 2014 Sep 1;117(5):518-24.
社会と産業	梅干野 晃 Whey peptide ingestion suppresses body fat accumulation in senescence-accelerated mouse prone 6 (SAMP6). Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Miura S, Naito H.	Eur J Nutr. 2014 Jul 14. [Epub ahead of print]
	Whey protein intake after resistance exercise activates mTOR signaling in a dose-dependent manner in human skeletal muscle. Kakigi R, Yoshihara T, Ozaki H, Ogura Y, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Naito H.	Eur J Appl Physiol. 2014 Apr;114(4):735-42.
	大型重量計を用いた夏季におけるケヤキ単木の蒸散特性の分析 (浅輪貴史、梅干野晃、清水克哉 他)	日本緑化工学会誌, Vol.39, No4
	半屋外の膜構造建築空間の光・熱・風環境を考慮した設計支援手法の構築 (親川昭彦、梅干野晃)	環境の管理, 第78号
人間と文化	梅干野 晃 蒸発冷却壁体で構成された半囲み空間に形成されるクールスポットに関する研究 —夏季屋外実測による冷気分布の実態把握— (平山由佳理、梅干野晃、太田勇)	環境の管理, 第78号
	マルチリターン航空機LiDARデータと植生放射伝達モデルによる 都市緑化樹木の日射遮蔽効果の計量化 (押尾晴樹、浅輪貴史、梅干野晃、宮坂聡)	日本リモートセンシング学会誌, Vol.35, No.1
	内堀 基光 'When Semangat Becomes Antu: An Essay on Iban Ontology', "NGINGIT", Issue 5,	The Tun Jugah Foundation, Kuching
	魚住 孝至 実存思想論集29集『道・身心・修行』 共著・論文「日本の武道の思想—『五輪書』と『弓と禅』について」	理想社
情報	笠谷和比古編『徳川社会と日本の近代化』 共著・論文「一九世紀における剣術の展開とその社会的意味」	思文閣出版
	加藤 浩 電車環境下で想定される情報の介入が学習に与える影響 (渡辺雄貴、加藤浩、西原明法)	日本教育工学会, 日本教育工学会論文誌
	天文学習のためのタンジブル学習環境に関するデザイン原則の検討 (葛岡英明、鈴木靖幸、山下直美、加藤浩、鈴木栄幸、久保田善彦)	日本科学教育学会, 科学教育研究
	LiveScreenBoard: 創発的分業を促すパーソナルデスクトップ共有ツールの開発と評価 (望月俊男、大浦弘樹、八重樫文、西森年寿、加藤浩)	日本教育工学会, 日本教育工学会論文誌
自然と環境	自己調整学習サイクルにおける計画とリフレクション: 授業外学習時間と英語力との関係から	日本教育工学会, 日本教育工学会論文誌
	研究開発物の権利に関する創作者帰属と法人帰属との関係	日本学術会議協力学術研究団体 企業法研究
	児玉 晴男 オンライン講義の公開に関する知的財産権管理	日本学術会議協力学術研究団体 情報通信学会誌
	わが国の著作権制度における権利管理	情報管理, Vol.57, No.2
芝崎 順司 オープンコンテンツを利用した事前学習のための 視聴反応モバイルシステムの開発と利用評価	教育メディア研究, 第21巻第2号, 日本教育メディア学会	
奈良学習センター	池原 健二 Protein world hypothesis on the Origin of Life	Orig. Life. Evol. Biosph. DOI 10.1007/s11084-014-9383-4 (2015).
山口学習センター	Protein Ordered Sequences are Formed by Random Joining of Amino Acids in Protein 0th-Order Structure, Followed by Evolutionary Process	Orig. Life. Evol. Biosph. DOI 10.1007/s11084-014-9384-3 (2015).
	阿部 憲孝 Unexpected Formation of 2-Amino-1-((2-nitrophenyl) sulfinyl) azulene by the Reaction of 2-Aminoazulene with 2-Nitrobenzenesulfonyl Chloride.	Heteroatom Chemistry, 25(5), 389-395, 2014.
	The Cycloaddition of 2-Phenylamino-1-azaazulene with Diphenylacetylene using Palladium Catalytic Systems.	Heterocycles, 90(1), 715-722, 2015.

国際交流の取り組み

2014年度も、本学が加盟する国際組織の会議への参加、本学での国際シンポジウムの開催、また新たな国際交流協定の締結など、国際交流に積極的に取り組んだ。

第28回AAOU年次大会への参加

2014年10月28日から30日まで、アジア公開大学連合 (AAOU=Asian Association of Open Universities) の第28回年次大会が中国・香港公開大学主催で行われた。“Advancing Open and Distance Learning: Research and Practices”のテーマで開催され、本学

からは岡部学長をはじめ教員2名が参加した。本学から参加した山田教授は、TIES (タイズ) コンソーシアムと推進してきた「公開教育の学習コミュニティの成立とその情報基盤」に関する論文発表と講演を行い、総数140近い論文の中からBest Paper Award銀賞を授与された。



AAOU 理事の集合写真 (岡部学長：左から3番目)



Best Paper Award 銀賞授賞式 (山田教授：前列右)

ICDE-SCOP2014会議への参加

本学は国際遠隔教育会議 (ICDE=International Council for Open and Distance Education) の機関会員となっており、2014年も積極的に参加した。

2014年11月19日から21日までインドシア・バリにてテルブカ大学主催で、世界各国の遠隔教育に関する

情報共有等を行うことを目的とした国際遠隔教育会議学長会議 (SCOP2014=Standing Conference of Presidents) が開催され、本学から岡部学長及び来生副学長の2名が参加した。

放送大学国際シンポジウム2015(OJIS2015)の開催

2015年2月13日、米国、英国、そして日本国内から有識者を招き、国際シンポジウム2015(OJIS2015)を幕張メッセ国際会議場にて開催した。白井理事長の挨拶に続き広瀬教授の総司会により「障害のある学生への支援—高等教育とICT活用—」をテーマに進められた。

日本では2013年に障害者差別解消法が制定され、大学でも2016年から障害のある学生への支援をより積極的に行うことが求められている。この分野で

世界的に最もアクティブな実践と研究に関わる4名の講演者と共に国内外の取組みについて議論が

できた事は大変有益であった。今回は文字通訳や手話通訳に加えて、参加者が文字通訳を自分の携帯端末で見る事が出来るシステムを導入した。議論と情報保障の整備の両面から、放送大学における障害者支援と情報のアクセシビリティの観点から新たな試みとなった。



国際交流協定

■スペイン カタルーニャ公開大学

2014年8月1日、スペインのカタルーニャ公開大学と本学の間で国際交流協定が締結された。これにより、本学の国際交流協定校数は11校となった。



カタルーニャ公開大学との国際交流協定書 表紙

■ブータン王立 シラブツェ・カレッジ

昨年締結したブータン王立シラブツェ・カレッジ(SCRUB)との国際交流協定に基づいて学長と2名の職員が本学と佐渡市真野の再視聴施設を訪問した。遠隔教育の施設見学やコンテンツ教育などについて学長及び他の教員と意見交換した。また本学の学生と教職員6名がSCRUBを訪問し学生間交流を行った。



放送大学への海外からの来客

2014年も、下記のとおり外国からの訪問者が遠隔教育に関する情報交換等のために本学を訪れた。

月日	来訪者
4月18日	スコタイ・タマティラート公開大学(タイ) 来訪者(3名)
5月16日	チュラロンコン大学(タイ) 来訪者(9名)
5月27日	カタルーニャ公開大学(スペイン) 来訪者(1名)
8月4日~6日	ブータン王立シラブツェ・カレッジ来訪者(3名) ※河合教授等によるプロジェクト招へい
9月25日~26日	国家開放大学・デジタル学習資源センター(中国) 来訪者(18名)



国家開放大学・デジタル学習資源センター 来訪者一行



社会への貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。多岐にわたる社会貢献活動を行っているが、ここではその中から、本学の教員が行った活動の一部を紹介する。

● 日本学術会議

日本学術会議は、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された。職務は、以下の2つである。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野における科学者約84万人を内外に代表する機関である。210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主に①政府に対する政策提言、②国際的な活動、③科学者間ネットワークの構築、

④科学の役割についての世論啓発である。

本学の教員も連携会員に選ばれ、その活動に貢献している。

下表は本学の会員加入状況を示すものである。

日本学術会議での会員(連携会員)加入状況

氏名	職名	専門分野
稲村 哲也	教授	地域研究、環境学
岩永 雅也	教授	心理学・教育学、社会学
内堀 基光	教授	地域研究
小川 正人	教授	心理学・教育学
宜保 清一	沖縄学習センター所長・特任教授	農学
原 純輔	宮城学習センター所長・特任教授	社会学
梅干野 晁	教授	土木工学・建築学
松本 忠夫	教授	統合生物学
宮本 みち子	副学長	社会学

● 学会、国、地方自治体等での活動

本学の教員は学識者として、それぞれの専門性を生かし、社会において幅広く活躍している。活躍の場は学会の

みならず、国・地方自治体等の様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

氏名	職名	役職
宮本 みち子	副学長	日本学術会議連携会員、社会保障審議会委員、労働政策審議会委員、内閣府子どもの貧困対策に関する検討会座長、横浜市専門委員、千葉市子ども・子育て会議会長、千葉県次世代育成支援対策を推進する千葉県会議議長、内閣府子ども若者評価・点検委員会座長
田城 孝雄	教授	内閣官房地域活性化統合本部地域再生推進委員会委員長、内閣官房地域活性化統合本部環境未来都市推進ボード委員、厚生労働省医政局地域再生計画に係る有識者会議委員、世田谷区保健福祉審議会委員
関根 紀子	准教授	日本体力医学会評議員、文部科学省体力・運動能力調査協力者
小川 俊樹	教授	公益社団法人 日本心理学会理事、日本ロールシャハ学会常任理事
小川 正人	教授	日本学術会議連携会員、日本教育学会理事、日本教育行政学会理事、日本教育経営学会理事、文部科学省・中央教育審議会副会長、初等中等教育分科会長、教育制度分科会長、高校教育部長、小中一貫教育特別部長、チーム学校としての学校・教職員の在り方に関する作業部会主査、東京都足立区教育委員、教科書研究センター理事、国立教育政策研究所評議員
小野 けい子	教授	日本青年期精神療学会理事
原田 順子	教授	神奈川県医療費検討委員会委員
梅干野 晁	教授	日本学術会議連携会員
稲村 哲也	教授	日本学術会議連携会員
内堀 基光	教授	日本学術会議連携会員
宮下 志朗	教授	大学評価・学位授与機構 学位審査会専門委員
井口 篤	准教授	日本中世英語英文学会評議員
魚住 孝至	教授	文部科学省教科用図書審議会委員(第2部会)
加藤 浩	教授	日本教育工学会理事、日本教育工学会論文誌編集委員会副編集長、日本教育工学会選書委員会編集幹事、日本科学教育学会編集委員会編集幹事
児玉 晴男	教授	企業法学会(日本学術会議協力学術研究団体) 理事、日本機械学会(日本学術会議協力学術研究団体) 法工学専門会議運営委員会委員
広瀬 洋子	教授	PEPNet-Japan(日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク) 運営委員、全国高等教育障害学生支援協議会設立準備委員会委員、全国高等教育障害学生支援協議会設立準備委員会監事
三輪 眞木子	教授	科学研究費委員会専門委員
加藤 和弘	教授	日本緑化工学会理事、環境情報科学センター理事、千代田区生物多様性推進会議副座長
筑和 正格	北海道学習センター所長	北海道都市地域学会監事
原 純輔	宮城学習センター所長	日本学術会議連携会員
森田 道雄	福島学習センター所長	福島県私立学校審議会委員
柴 眞理子	東京足立学習センター所長	舞踊学会会長
岡野 幸雄	岐阜学習センター所長	岐阜大学評価室会議外部委員
菊川 律子	福岡学習センター所長	中央教育審議会委員(スポーツ青少年分科会長 生涯学習分科副分科会長)、福岡県社会教育委員、大学等における男女共同参画に関する調査研究検討委員(独立行政法人国立女性会館)

一般向け講演会

大学で培われた教育ならびに研究の成果を広く社会に提供することは、大学と社会との垣根を取り去り、相互のさらなる発展が期待される。本学の教員は、その専門知識を、講演会を通じて社会に還元している。以下にその活動の一部を紹介する。

一般向け講演会			
講師	職名	テーマ	共催等
宮本 みち子	副学長	女性の貧困とアンダークラス化はなぜ進むのか	日本学術会議主催労働政策フォーラム
		生きづらい若者～学校教育から社会への道～	全労済シンポジウム
		無縁社会の全体像	日本家族く社会と法学会第31回学術大会シンポジウム
		現代の雇用危機を考える	日本学術会議社会学委員会社会学系コンソシアム主催シンポジウム
		子どもの貧困にどう向き合うか	足立区主催公演・シンポジウム
		いま、子供・若者を支えるために、何が求められているか ～子ども・若者育成支援推進法の施行から5年～	内閣府主催基調講演
		人口減少時代の単身社会を考える	新宿区自治フォーラム2015基調講演
小川 正人	教授	地教行法の改正と新教育委員会の役割・課題	日本教育行政学会第49回研究大会
		2014年地教行法改正と新教育委員会をめぐる課題	平成26年度全国市町村教育委員会研究協議会(東ブロック)
		地教行法改正の背景、論議と今後の教育委員会の在り方	東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修会
		教育委員会制度改革を踏まえたこれからの教育委員会の在り方	福岡県市町村教育長研修会
		2014年地教行法改正の背景、論議と今後の教育委員会の在り方	岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会
		地教行法改正の背景、論議と今後の教育委員会の在り方	山口県市教育委員会協議会研修会
小野 けい子	教授	人間のタイプ：自分と他者理解のための座標軸	大田区民講座
		サクセスフルエイジング(幸福な老い)のための心理学	大田区民講座
梅干野 晁	教授	赤外線計測と都市建築環境の可視化	日本赤外線学会
		魅力的な都市とはなんだろう(全3回)	渋谷区公開講座(渋谷区教育委員会 主催)
島内 裕子	教授	徒然草を読み直す	JR東海生涯学習財団主催
		徒然草の古典力	岐阜学習センター
		絵巻で読み解く徒然草	サントリー美術館
		徒然草を読む・見る・楽しむ	東京文京学習センター
		徒然草と現代	新潟学習センター
		古典を読む楽しみ	徳島学習センター
滝浦 真人	教授	過去のコミュニケーションを復元する 書き言葉と話し言葉をめぐる三都物語	日本言語学会公開シンポジウム
宮下 志朗	教授	翻訳者の使命―古典の継承のために	日仏会館創立90周年記念国際シンポジウム
魚住 孝至	教授	はりま歴史講座 武士の生きざま 軍師と武士道	姫路獨協大学主催
		戦国軍師の「軍法侍用集」から宮本武蔵「五輪書」へ	姫路獨協大学主催
		武道修行における身心変容―ヘーゲル「弓と禪」を手掛かりに	宗教哲学会第7回学術大会シンポジウム
森田 道雄	福島学習センター所長	これからの「学び」のあり方と施設の役割	福島市学習センター運営審議会センター長委員合同会議
鹿島 正裕	石川学習センター所長	シリアとイラクの内戦―誰が、なぜ、何を求めて?―	野々市市教育委員会・石川学習センター共催
菊川 律子	福岡学習センター所長	男女共同参画と教育の課題	福岡県男女共同参画フォーラム2014
		社会教育の継承と発展	福岡県立社会教育総合センター30周年記念講演

学習センターの活動、この1年

入学者の集い

4月と10月に、各学習センターで「入学者の集い」を開催した。全国で年間46,824名の学部学生と5,293名の大学院生が入学し、放送大学における学びへの第1歩をふみだした。



秋田学習センター



栃木学習センター



香川学習センター



熊本学習センター

名誉学生への表彰

2010年4月に、放送大学の5コースすべてを卒業した学生に対して、本学において多年にわたって修学を継続した意欲的な学習者を顕彰するとともに、本学学生の学習意欲の向上を図ることを目的として「名誉学生」という制度を設立した。

2014年度は、44名が名誉学生となった。名誉学生の資格を得たものは、3月の学位記授与式で学長表彰された。なお、2011年度の表彰より、5コースすべてを卒業したことに加え、人物、学習態度が良好であることが要件となっている。

名誉学生には、本学を卒業した後も、学習センターの各種施設を利用することができるなど各種特典を付与している。



新任の学習センター所長

2014年度は6の学習センターで新たに学習センター所長が就任し、学習センターのさらなる充実と発展のための活動に取り組んでいる。

新任の学習センター所長一覧

茨城学習センター	横沢 正芳(よこさわ まさよし)	島根学習センター	佐々 有生(ささ すみお)
東京足立学習センター	柴 真理子(しば まりこ)	香川学習センター	大平 文和(おおひら ふみかず)
石川学習センター	鹿島 正裕(かしま まさひろ)	福岡学習センター	菊川 律子(きくかわ りつこ)

4学習センターで開設20周年の記念式典を開催

新潟、三重、高知、および大分学習センターは開設20周年を迎え、記念式典を開催した。これらの学習センターでの記念講演会では岡部学長が講演を行った。

式典や講演等を通じ、参加者がふれ合い、学習センターの節目を祝った。



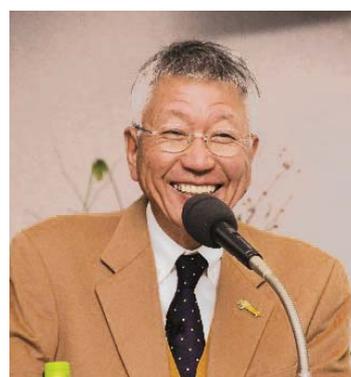
新潟学習センター 岡部学長による記念講演会・祝賀会



三重学習センター 記念式典・岡部学長による記念講演会



高知学習センター 記念式典・記念講演会のパンフレットと講師 黒笹慈幾氏 (小学館・[BE-PAL]元編集長)



大分学習センター 記念式典・岡部学長による記念講演会



地域に根ざした教育

面接授業

本年度も、多彩な面接授業が各学習センターで開講された。いろいろな学問分野の基礎だけではなく、地域に根ざす様々なテーマに関する授業が、大学教員に加えて各界で活躍する講師が担当して開講され、多数の学生が受講した。

- 静岡学習センター 「静岡の農業を知る－お茶とミカン」
- 滋賀学習センター 「里山から考える持続可能な生活」
- 高知学習センター 「体験観光から学ぶ地域観光入門」
- 長崎学習センター 「五島灘洋上実習」



静岡学習センター 「静岡の農業を知る－お茶とミカン」



滋賀学習センター 「里山から考える持続可能な生活」



高知学習センター 「体験観光から学ぶ地域観光入門」



長崎学習センター 「五島灘洋上実習」

地域をテーマとした講演会

秋田学習センターでは、県立図書館との連携セミナー『秋田をまなぶ講座』を企画し、シリーズとして毎年開催している。この企画は2009年にスタートし今年で6年目に入った。前年度に引き続き『秋田をまなぶ講座』を開催することによって、「県民の生涯学習への意識啓発を図るとともに、広く学習機会の場を提供する」もので、年を増す毎に聴講者も増加してきている。

- これまでの開催図書館**
- 県立図書館、増田図書館、能代図書館、鷹巣図書館、由利本荘市図書館、湯沢図書館、大曲図書館、横手中央図書館、大館中央図書館



集いの場としての学習センター

放送大学の学習センターでは、学生が勉学活動に利用するだけでなく、サークル活動や様々な共通関心事に関して、学生の交流活動が活発に行われている。学習センターは学生の集う場ともなっている。

サークル・学生活動

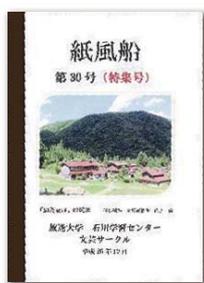
学生同士の親睦を深め、学業のみにとどまらない豊かなキャンパスライフを築いてもらうために、放送大学はサークル活動を支援している。サークル活動の中で、年齢やこれまでの人生経験が全く異なる人達と、共通の目的を持って活動することは、すばらしい体験となるであろう。



秋田学習センター「歴史・民俗・文化を学ぶ会」



群馬学習センター「若宮クラブ」



石川学習センター
「文芸サークル・冊子『紙風船』」



岐阜学習センター「リフレッシュサークル」



香川学習センター「茶の湯サークル」

文化祭

多くの学習センターでは、文化祭を開催し、学生の学習成果やサークル活動の成果を発表、披露している。文化祭は学生同士の交流の場であると同時に、教職員、そして地域の人々も参加し、交流を深める機会となっている。



群馬学習センター「学園祭 知と和」



滋賀学習センター「文化祭」



鳥取学習センター「放まつり」



高知学習センター「芸術文化祭」

研修旅行

全国の学習センターでは学生間の交流を図るため、また学生と職員の交流を図ることを目的として、研修旅行を実施している。



秋田学習センター



石川学習センター



福井学習センター



岐阜学習センター



滋賀学習センター



香川学習センター



群馬学習センター



神奈川学習センター



高知学習センター



熊本学習センター

地域と密着する学習センター

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。放送大学学生にかぎらず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、また共に考える機会を提供し

ている。講師は、放送大学関係者に加えて、それぞれの地域や分野で活躍する多彩な方々をお招きしている。以下は本年度開催されたもののほんの一例である。

公開講演会・公開講座

学習センター	題目	講師	
北海道学習センター	ライフスタイルと健康～ユーモアと癒し～	北海道医療大学大学院教授	志渡 晃一
青森学習センター	江戸時代の標準語と津軽方言	青森学習センター所長	藁科 勝之
岩手学習センター	復興をめざし、未来責任を果たそう～学んだ知識と知恵を社会へ	岩手学習センター所長	齋藤 徳美
宮城学習センター	日常と非日常の心理学－化粧・顔・震災－	東北大学大学院教授	阿部 恒久
秋田学習センター	秋田の子どもの学力向上の秘密～学校の役割と親の役割～	秋田大学教授	阿部 昇
山形学習センター	北村山地方の注目される石造文化財	日本石仏協会理事	加藤 和徳
福島学習センター	ふるさと福島連続講演会 宇宙から「ふるさと福島」を考える	東日本国際大学教授	浅井 義彦
茨城学習センター	宇宙と人間	茨城学習センター所長	横沢 正芳
栃木学習センター	トップを目指すことの素晴らしさ－暴力に頼らないスポーツ指導－	日本オリンピック委員会理事 日本テニス協会常務理事	福井 烈
群馬学習センター	群馬と日本の蚕糸業の軌跡－世界遺産登録への道－	元群馬県理事兼農業局長	田中 修
埼玉学習センター	埼玉県の人びとは戦争をどう支えたのか －慰問誌『銃後の埼玉』(1940年)をめぐる－	埼玉大学准教授	一ノ瀬 俊也
千葉学習センター	古くて新しく楽しい狂言 和楽の世界	能楽師和泉流狂言方	小笠原 匡
東京足立学習センター	ダンスはコミュニケーション	東京足立学習センター所長	柴 眞理子
東京文京学習センター	柔道と人間力	筑波大学准教授	山口 香
東京渋谷学習センター	通信の歴史、現在、未来－電話、インターネット、ケータイ、スマホ、そして・・・	東京渋谷学習センター所長	酒井 善則
東京多摩学習センター	幸福な老いを目指して～心理学から学ぶ～	放送大学准教授	星 薫
神奈川学習センター	科学でわかった男と女	横浜国立大学名誉教授	種田 保穂
新潟学習センター	新潟(うた)の文化誌～越後に響くうたの原風景	新潟大学教授	伊野 義博
富山学習センター	観光経済学入門～新幹線開通の経済・社会のインパクト	富山県立大学教授	九里 徳泰
石川学習センター	シリアとイラクの内戦－誰が、なぜ、何を求めて?－	石川学習センター所長	鹿島 正裕
福井学習センター	自然災害は自然現象～自然災害について見方を変えて考えてみよう～	福井大学教授	山本 博文
山梨学習センター	キレイな景色を再認識! ～すばらしい町、韭崎～	山梨大学教授	尾藤 章雄
長野学習センター	諏訪湖のアオコとその毒素の問題－過去・現在・未来－	信州大学教授	朴 虎東
岐阜学習センター	岐阜県の風土から読み解く地震と災害への備え	飛騨地学研究会会長	下畑 五夫
静岡学習センター	世界文化遺産を守る富士山の自然	静岡大学特任教授	増澤 武弘
愛知学習センター	発掘された文化財から地域の歴史・文化を読み解く	愛知県埋蔵文化財センター 調査研究専門員	永井 宏幸
三重学習センター	人と法との関係とは－まとめにかえて	三重学習センター所長	上野 達彦
滋賀学習センター	琵琶湖から考える地球環境問題	立命館大学教授	天野 耕二
京都学習センター	茶の湯文化のおもてなし～茶会・茶事の成立～	千里金蘭大学教授	生形 貴重
大阪学習センター	宝塚歌劇100年の輝き～湖月わたるさんを囲んで～	元宝塚歌劇団トップスター	湖月わたる ほか
兵庫学習センター	サクセスフルエイジングのための心理学	放送大学教授	小野 けい子
奈良学習センター	消費者法の現状と課題	放送大学客員准教授	大塚 浩
和歌山学習センター	連携公開講座2014「和歌山、街の光・地域の力」 第1回 和歌山県のまちづくりと地域の力	和歌山大学教授 和歌山県庁	足立 基弘 西川 隆博
鳥取学習センター	グローバル社会と高齢社会	鳥取学習センター所長	若 良二

学習センター	題目	講師	
島根学習センター	知っておきたい認知症の基礎知識～原因、症状、予防～	放送大学教授	井出 訓
岡山学習センター	くらしの法百科	岡山学習センター所長	岡田 雅夫
広島学習センター	身近な免疫学 抗体たんぱく質を解剖する	広島学習センター客員教員	松田 治男
山口学習センター	人類の贅沢を科学する	岡山学習センター所長	阿部 憲孝
徳島学習センター	江戸時代後期の阿波書道文化	四国大学教授	太田 剛
香川学習センター	安心できる老後のために ～預ける・貯める・増やすためのやさしい経済のお話～	日本証券業協会 証券カウンセラー	元山 英雄
愛媛学習センター	ドイツの文化誌(1)～四季と祭り～	愛媛学習センター所長	森 孝明
高知学習センター	先を急がず、刺激を求める～新しいお遍路スタイルの提案～	南国生活技術研究所代表 (「BE-PAL」元編集長)	黒笹 慈幾
福岡学習センター	黒田官兵衛孝高とその時代	九州大学大学院教授	中野 等
佐賀学習センター	身近な情報通信技術	佐賀大学准教授	羽石 寛志
長崎学習センター	世界遺産登録にむけて～明治日本の産業革命遺産を中心に～	長崎市文化財審議会委員	本馬 貞夫
熊本学習センター	三角西港に見る明治のロマンと技術 明治の文豪ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)と三角西港について	熊本大学教授 熊本大学名誉教授	伊藤 重剛 西川 盛雄
大分学習センター	物覚えと物忘れ	大分大学教授	前田 明
宮崎学習センター	インターネットとソーシャルネットワーク ～私たちを取りまく環境の変化とは～	宮崎公立大学准教授	森部 陽一郎
鹿児島学習センター	津波の動きと避難行動～「津波映像」から奄美を考える～	鹿児島大学特任教授	岩船 昌起
沖縄学習センター	“なんくるないさー”と子どもの学力～なんくるないさ～は楽観or悲観?～	琉球大学教授	島袋 恒男

● 附属図書館所蔵コレクション展の開催

放送大学では、毎年、附属図書館が所蔵するコレクションの一部を各地で展示し、貴重な資料に触れる機会とするとともに、放送大学への理解を深めるきっかけとしていただいている。

2014年度は、高知学習センター開設20周年記念事業の一環として高知市にて開催し、「日本残像～ちりめん本と古写真が語る幕末明治～」と題して、明治期の欧文和装絵本「ちりめん本」や幕末から明治期の古写真を展示した。

来場した一般の方には放送大学への理解を広め、放送大学の学生には放送大学への愛着を深める機会となった。

学習センター	高知学習センター
期 間	11月13日(木)～11月16日(日)
場 所	高知大学朝倉キャンパス(高知県高知市)
来場者数(人)	286

ちりめん本と古写真が語る幕末明治

放送大学高知学習センター開設20周年記念
放送大学附属図書館所蔵コレクション展

日本残像

入場無料

2014年11月13日(木)～11月16日(日)
10:00～17:00(最終日は12:00まで)

高知大学朝倉キャンパス学生会館2階
共同談話コーナー(高知県高知市朝倉2丁目5-1)

主催:放送大学附属図書館、放送大学高知学習センター
協賛:高知市歴史博物館、高知大学、高知市歴史、高知市立歴史博物館、
高知市歴史館、高知市立博物館、高知市立図書館

講師
講師① MOOCとオンライン授業について
講師/放送大学長 岡田 雅夫
講師② 「先を急がず、刺激を求める」
新しいお遍路スタイルの提案
講師/南国生活技術研究所代表 黒笹 慈幾

日時: 2014年11月15日(土)14:00～
会場/高知大学朝倉キャンパス
メディアの森8Fメディアホール

2015年度
4月入学生
募集!

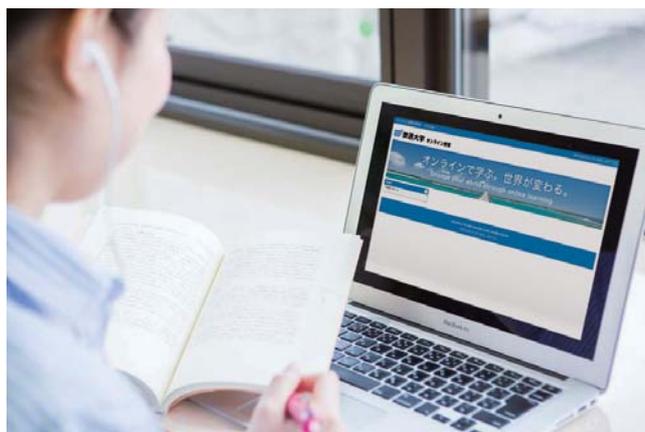
Web: 平成26年11月1日(月)～
Web: 平成27年2月28日(土)
Web: 平成27年3月1日(日)～
Web: 平成27年3月31日(水)

放送大学

学習センター

● オンライン授業の開始に向けて

本学は「放送大学学園法」によって設立され、大学の行う授業は放送授業と面接授業に限定されていた。そのため、これまでは放送によらずインターネットだけで配信する「オンライン授業」の提供ができなかった。しかし、時代環境の変化の中で、放送大学がオンライン授業を配信することについて、関係官庁の了解を得ることができ、2015年4月からオンライン授業配信がスタートする。オンライン授業の開始により、社会の多様なニーズに応じた多数の科目の提供が可能になり、これまで通り、放送を軸にしなが、それを補う双方向性を持つ授業として、面接授業とオンライン授業を展開する新しい時代に入ることとなる。



2015年度オンライン開設予定科目			
科目名称	科目区分	系・コース	主任講師
教育課程の意義及び編成の方法('15)	専門	心理と教育	福元 真由美(東京学芸大学准教授)
幼児理解の理論及び方法('15)	専門	心理と教育	中澤 潤(千葉大学教授) 砂上 史子(千葉大学准教授)

● 新しくなった福岡学習センター・北九州サテライトスペース

福岡学習センターは、博多駅近くの博多織会館から、九州大学筑紫キャンパスに、4月に移転した。3月30日に開催された移転記念式典では、白井理事長の挨拶の後、九州大学総長、福岡県立大学長と春日市長および大野城市長からの祝辞があり、地域との連携に対する期待が述べられた。福岡学習センターが九州大学箱崎キャンパスに初めて設置されたのは1990年だった。1998年には、講義室が手狭になったこともあり博多織

会館に移転し、今年4月から再度九州大学キャンパスに戻った。古くから在籍し、九州大学箱崎キャンパスの時代を知る学生にとっては、待ちに待った移転であった。

また、北九州市立中央図書館内に設置されていた北九州サテライトスペースも、中央図書館の耐震工事計画に伴い、2014年10月JR黒崎駅に隣接した「コムシティ」内に移転した。従来より交通アクセスが良いところとなり、学習環境の充実につながると期待される。



福岡学習センター



北九州サテライトスペース

データで見る 放送大学の概要

教職員数 [単位:人]

役員	7	※1
学長	1	
副学長	3	※2
教員	87	
事務職員	247	
合計	343	※3

(2015年3月31日現在)

※1 学長(理事)、副学長(理事)を含む

※2 副学長(理事)を含む

※3 重複があるため合計は一致しない

在学生数 [単位:人]

教養学部

学生の種別等	在学生
全科履修生	56,123
選科履修生	16,893
科目履修生	7,559
特別聴講学生	3,317
合計	83,892

(2014年度第2学期)

大学院

学生の種別等	在学生
修士全科生	1,176
修士選科生	3,742
修士科目生	688
博士全科生	12
合計	5,618

(2014年度第2学期)

集中科目履修生

学生の種別等	在学生
学校図書館司書教諭講習	830
看護師資格取得に資する科目	532
合計	1,362

(2014年度)

(注)特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

単位互換協定締結校数 [単位:校]

学校の種別	大学院	大学	短大	高专	合計
枚数	7	273	86	15	381

(2015年3月31日現在)

入学者数 [単位:人]

教養学部

学生の種別等	1学期	2学期	合計
全科履修生	6,670	4,249	10,919
選科履修生	10,869	5,940	16,809
科目履修生	6,916	7,559	14,475
特別聴講学生	1,304	3,317	4,621
合計	25,759	21,065	46,824

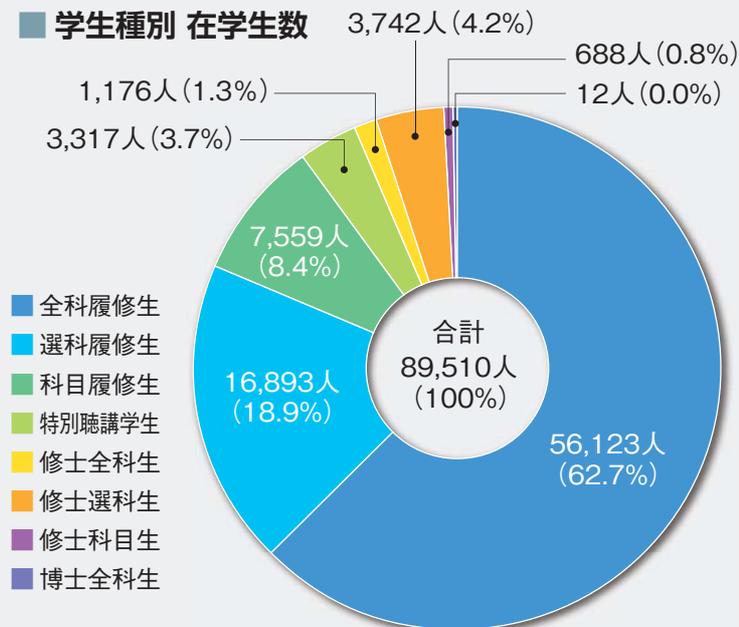
(2014年度)

大学院

学生の種別等	1学期	2学期	合計
修士全科生	402	—	402
修士選科生	2,597	1,104	3,701
修士科目生	490	688	1,178
博士全科生	—	12	12
合計	3,489	1,804	5,293

(2014年度)

学生種別 在学生数



学部卒業者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
1,845	3,070	4,915	84,102

(2014年度)

大学院修了者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
7	350	357	4,534

(2014年度)



〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
TEL:043-276-5111(総合受付)
<http://www.ouj.ac.jp/>